

法華宗信報

Hokkeshu Shinpoh

NO.145

お会式号

平成26年10月1日

【発行】法華宗宗務院

つなぐ

今あることを感謝して

CONTENTS

- 2 本果院日朝聖人について
- 4 万灯練り供養 — 大本山光長寺お会式 —
- 6 世界文化遺産 富士山を巡る②
- 7 被災地からの手紙「忘れないで下さい」
- 8 マンガ「光くん日記」・編集後記

本果院日朝聖人

について

一 出生と開創寺院

光長寺において、大切な方に本果院日朝聖人がおられます。

日朝聖人は、光長寺の歴代(御前様)ではありませんが、光長寺が他の三本山(鷲山寺・本徳寺・本興寺)とともに現在の法華宗を構成する礎を築かれた方です。

聖人の出生は定かではありません。言い伝えによると立正寺(山梨県勝沼・休息)の門前に捨て子としておかれていたのを拾われ、後に立正寺と両山一寺の関係であった光長寺第四世日賢聖人のお弟子となられました。聖人九歳の時です。

日賢聖人の下で修行に励み、光長寺の塔頭東之坊第五世とな

り、光長寺学室の学頭として多くのお弟子を育成されました。また立正寺との行き来もありました。両寺の学僧達の面倒を見られたので

その行き来の間、本蓮寺(小山町)をはじめ、蓮静寺(御殿場市)、本国寺(御殿場市)、蓮華寺(長泉町)、そして安立寺(伊東市)を開創されました。聖人の学徳がそれぞれの地の人々をして、法華の信仰を呼び寺院建立になったのです。

【立正寺の解説】

立正寺は光長寺同時二祖である日法聖人によって開かれ、



日朝聖人御木造(光長寺安置)

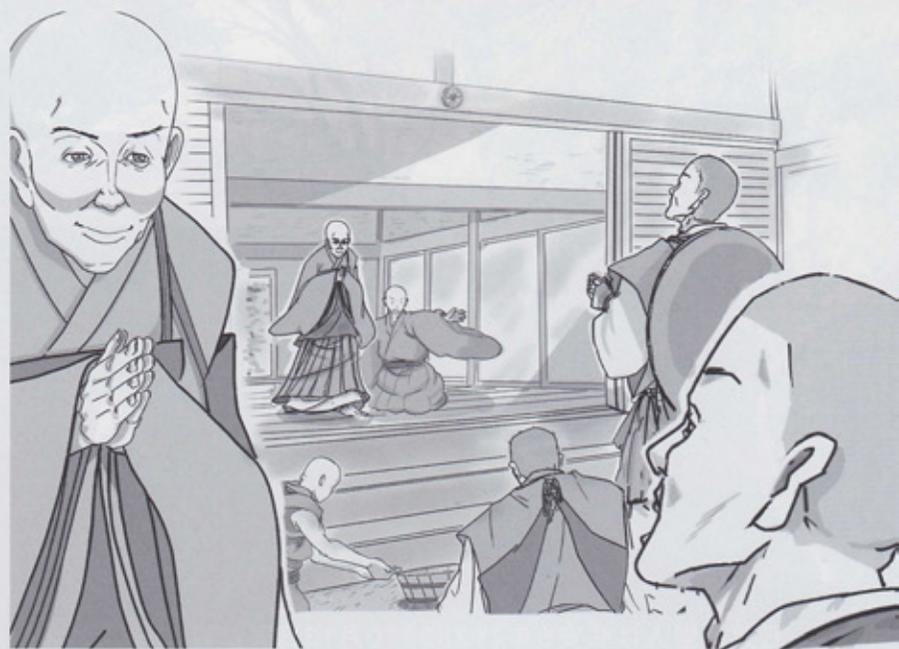
二 日隆聖人との出会い

正長元年(一四二八)日朝聖人は立正寺第七世の御前様となりました。

そのような時、当時京都で活躍されていた日隆聖人の『四帖抄』を手になされたので、立正寺・光長寺は日法聖人縁の寺であり、日蓮大聖人の教えを正しく伝えている寺院である、との自信はお持ちでした。しかし身延山をはじめ、当時の日蓮大聖人門下の関東諸寺院は大聖人の教えから外れ、天台宗の考え方に染まっていたのです。

そうした時、『四帖抄』が、日隆聖人との出会いの契機とな

プに入らず、光長寺のもとにとどまったお上人様方もおられました。その方々によって、今の光長寺の末寺である立正寺が守られ、現在に至っています。



りました。是非とも日隆聖人と
お会いして法門（日蓮大聖人の
教え、法華経の解釈の問題など
のこと）を語り合いたいと思
いをもって、日朝聖人は永享七
年（一四三五）京都へ上られた
のです。徒歩以外に交通手段の
ない当時、その行程が非常に困
難なものであったことは間違い
ありません。にもかかわらず、

上京された日朝聖人には
日蓮大聖人の正しい
教えをともに確かめた
いという強い思いが
あったことでしょう。

本徳寺に着かれた
日朝聖人は、本堂
の前にて「本門八品
上行所伝本因下種の
南無妙法蓮華経」と声
高らかにお唱えになり
ました。その声を聞か
れた日隆聖人は、日本
国に自分以外にも本門
八品のお題目を唱えら

れる僧侶がいたとは、と大いに
驚かれ、且つ感激されて日朝聖
人を厚くもてなしたと言われて
います。

三 一味法水の盟約

日朝聖人と日隆聖人お二人は
三日三晩に亘って法門を語り合
い、お互いの信ずるところ符節

を合わせたように一致されたと
伝えられます。水の味が一つで
あるように、東西の法門が同一
であることを確信されたので
す。

それから両聖人は日本国の東
で日朝聖人が、西では日隆聖人
が日蓮大聖人の正しい教えを弘
めていく、との盟約を交わされ
ました。一味法水・人法互融の
約束です。この両聖人の交流
が現在の法華宗の礎であり出
発でした。法華宗ではこれを
「東朝西隆」と称しています。

四 その後の日朝聖人

京都から帰られ
た後もより一層の
信念をもって布教
とお弟子の育成に
励まれました。日
隆聖人の教えであ
る御聖教の書写
や、各寺院に伝え

られている多くの御本尊をした
ためられたのもこの頃です。日
朝聖人の薫陶を受けたお弟子も
七十余人おられたと伝えられて
います。

文正元年（一四六六）十月
二十五日、日朝聖人は御年
八十三歳にて立正寺において
遷化されました。お墓は立正寺
の境内の片隅にあります。

来年、平成二十七年は日朝聖
人の五五〇遠忌にあたります。
是非この機会に光長寺にお参り
していただき、多くの方と共に
その御報恩に感謝いたしましよ
う。

（湯船・本蓮寺 芹澤泰謙）



日朝聖人墓石（休息 立正寺）

万灯練り供養

— 大本山光長寺お会式 —

日蓮大聖人は弘安5年(1282)10月13日辰の刻(午前8時頃)聖寿61歳をもってお亡くなりになりました。たくさんの弟子・信者たちは、その御威徳に感謝の誠を捧げようと、大聖人の御命日の前後に皆で集まり法要を奉修されました。以来730余年、大聖人の年回忌法要は「お会式」と呼ばれ、全国の寺院・教会等で大切に営まれてきました。

大本山光長寺開基

同時二祖の一人に仰がれる日法聖人

は、いつも日蓮大

聖人の傍らに付き従

い、ご給仕されてい

たといわれ、日蓮大聖人

の御葬儀を取り仕切られました。

そして、茶毘後の灰中に御舍利・

御真骨を感得され、終生ご給仕さ

れました。

光長寺のお会式法要では、この

御舍利を御宝蔵よりお迎えして、

報恩感謝のお題目を七百三十余年

の間、絶えることなくお唱えし続

けています。

光長寺のお会式では、お逮夜法

要の前に行われる万灯練り供養を

見逃すことはできません。あたり

が闇に包まれる頃、山門から本堂

までの長い参道が灯籠と提灯に照

らされ、その中を万灯の光がゆっ

くり進む様子には、えもいわれぬ

風情があります。





万灯とは文字通り、万の灯のこと。お会式の万灯は、沢山の灯明を日蓮聖人に捧げるものです。現在では大小の木組みの宝塔のまわりに、お会式桜を模して紙で作った桜をたらしした形が一般的です。これは大聖人がご入滅のとき、庭先の桜が咲いたという故事を再現しているのです。この万灯を先導するのは纏。江戸時代に町火消し衆が自分たちの組のシンボルとして用いたものです。大聖人への信仰と江戸町人の祭り文化が融合して現在の万灯行列となっているのです。

光長寺の万灯練り供養は従来有志寺院により奉納されてきましたが、昨年から「私たちも自分で作って供養したい」という声が高まっています。光長寺檀信徒有志が折り紙細工で作った可憐な桜玉を連ねた万灯が加まりました。手のこんだ折り方に悪戦苦闘しながら、篤い信心と報恩感謝の気持ちを込めて一つひとつ手づくりされた万灯は何

ものにもかえがたく、温かくまばゆい光を放ちます。また昨年、これまでのうちわ太鼓や鉦によるお囃子にあわせて、新たに組曲（光長寺囃子）が作曲されました。地域の方々の参加も得て、様々な民族楽器やフルート、ピッコロ、ギターなど、好みの楽器をもちより、ポップなメロディーを奏でたお練りとなっています。

秋風吹く光長寺の万灯練り供養。願わくばこの万灯の明かりが行く先々を照らし続ける光明となり、子々孫々未来永劫までもお会式法要が営まれますように。

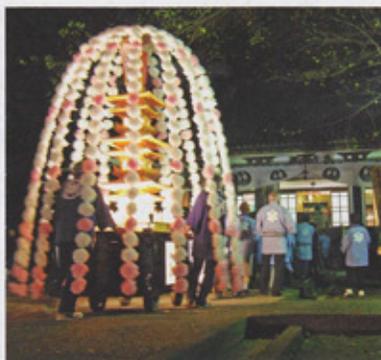
大本山 お会式案内

十月十二日・十三日 光長寺・本能寺

十月十二日・十三日 鷲山寺・本興寺

皆様の御参詣をお待ちしております。

※詳細は各本山または菩提寺までお問い合わせください。



世界文化遺産

富士山を巡る②

浅間神社

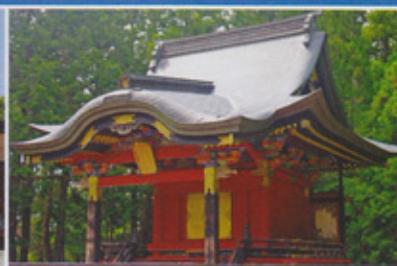
構成資産のひとつである浅間神社は、富士山をご神体とする浅間神や、日本書紀にも登場する木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）を祀る神社です。富士山周辺をはじめ、全国にあって、世界遺産（構成資産）にはそのうち八社が登録されています。世界遺産としての富士山は、信仰と芸術も登録の対象ですので、富士信仰の拠り所である浅間神社も世界が認めた遺産なのです。



北口本宮富士浅間神社 拝殿



浅間大社 拝殿



富士御室(おむろ)浅間神社 本殿



東口本宮富士浅間神社 本殿

■世界文化遺産（構成資産）に

登録されている浅間神社

- 富士山本宮浅間大社
(静岡県富士宮市)
- 山宮浅間神社(静岡県富士宮市)
- 村山浅間神社(静岡県富士宮市)
- 須山浅間神社 (静岡県裾野市)
- 東口本宮富士浅間神社
(静岡県小山町)
- 北口本宮富士浅間神社
(山梨県富士吉田市)
- 富士御室浅間神社
(山梨県富士河口湖町)
- 河口浅間神社
(山梨県富士河口湖町)

■富士登山との関係

浅間神社は、富士登山する人のための神社でもあります。現存している登山道にはすべて神社があり、そこが一合目とも言われています。登山者はまず、この浅間神社にお参りしてから、山頂にある浅間神社の奥宮を目指します。

■浅間神社の歴史

浅間神社の歴史は古く、富士宮の浅間神社は垂仁天皇三年に、建立されたといわれています。以来、多くの信仰を集め、特に山梨県の浅間神社は武田家によって守られており、武田信玄直筆の書状や信玄、勝頼奉納の太刀や鎧が奉納されており、国の重要文化財になっています。

また日蓮大聖人も、浅間神社の近くを通られていて、『富士殿御書』に「(五月) 十三日たけのした、十四日くるまがへし、十五日をみや(大宮)」と記されており、身延入山の際この地を経由し一泊されたことがわかっています。

浅間神社豆知識

浅間神社の浅間(せんげん)は古くは“あさま”と呼ばれ、一説では噴火する山のことを意味したといわれています。

被災地からの手紙



東日本大震災から3年半。

いまだ3年半にもかかわらず、遠い昔の出来事であるかのような印象を受けるようになりました。

いまだに仮設住宅で暮らす方々が何人いるか御存知ですか。原発事故のことは忘れてしまったのでしょうか。

私たち『法華宗信報』では被災地のことを忘れないためにも、現地の声を取り上げていきたいと考えております。

法華宗信徒として皆で考えていきましょう。



忘れないで下さい

福島 妙法院信徒 佐藤 知代子

東日本大震災から約三年半の歳月を経、今年もお盆を迎えて仮の仏壇に手を合わせ、ご先祖様の供養をすることができました。

地震と津波により住み慣れた家は倒壊し、幼なじみの友人はいまだに行方不明のまま、私は故郷を離れ、三回目の避難先である福島県二本松市の仮設住宅で主人と二人で暮らしています。そして何よりも東京電力福島第一原発事故は、それまで安全だと言われ続けてきた福島県浜通りに住む私たちの生活を一変させました。

たしかに原子力発電は、私たちの生活にとっては必要不可欠なものだったかもしれませんが。しかし事故以降、電力需要を原発だけに依存しているのだろうか、あるいは今回のような重大事故は周辺環境に多大な被害を与え、その影響は地球規模に及ぶということを思い知らされました。

今この平成の世に日蓮大聖人がおられたとしたならば、私たち被災者に何とお声をかけて下さったのでしょうか。すぐさまに被災地へ赴きになられ、遅々として進まない復旧

復興に対し挫けそうになっている私の心に、勇気と希望の心温まる、そして力強いお言葉をいただけたいと思います。

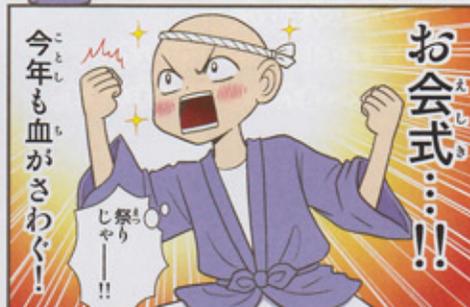
法華宗でも事故後すぐに「東京電力福島第一原発事故の一日も早い収束を祈り、原子力発電に頼らない持続可能な自然エネルギーによる社会の実現に向け、努力する」ことを表明された、とお上人から伺いました。

遺された私たちにとってまだまだ道は程遠いものですが、犠牲になられた友人や知人のために供養のお題目を唱え、一刻でも早くあの3・11前の故里に家族揃って戻れることを願って、できる限り精進してまいります。

どうかお願いいたします。月日の流れとともにだんだん風化されつつあるこの大災害を忘れないで下さい。



福島県相馬市原釜海水浴場駐車場



興隆学林専門学校校舎新築工事 ご寄付のお願い

興隆学林専門学校は、日蓮大聖人の正しい教えを学び伝えるため創立されて以来、実に560年に亘って多くの僧侶を輩出してきた法華宗の僧侶養成機関です。

旧校舎は、昭和48年に建立されて以来、阪神淡路大震災などを経験し老朽化が著しく、耐震構造の問題を解決するため校舎新築事業をおこなっております。

何とぞ次の世代に日蓮大聖人の正しい教えを伝えるため、宗門の将来のため、護法心によるご協力の寄付金を賜りたくお願いを申し上げます。

詳しくは寺院教会布教所のご住職担任にお問い合わせください。

法華宗宗務総長・法華学園理事長 二瓶 海照
興隆学林専門学校学林長 大平 宏龍

00920-6-164906

郵便振替番号
及び口座名

「興隆学校校舎建築基金」

学校法人 法華学園 興隆学校専門学校内
〒660-0862 兵庫県尼崎市開明町3-13-2

- 所属寺院には、専用振替用紙をお送りしております。ご住職にお伺いください。
- 専用振替用紙以外でお振り込みくださる場合は、必ず所属寺院名、ご連絡先及び領収書の有無を記入してください。

税制上の優遇の方法

指定する口座に納入されますと、学校法人法華学園より「寄付金領収証」と「特定公益増進法人の証明書(写)」を発送しますので、確定申告時に所轄税務署へ提出ください。詳しくは、文部科学省のホームページ「特定公益法人制度」についてもご参照ください。

編集後記

月日の経つのは早いもので、もうすぐお会式の季節です。この「信報」が東海教区の担当になって半年、二号目となりました。編集長としてまだまだ新米ですが、周りの方々から助け、なんとか努めている次第です。あらためて人の助けの有難味を痛感し、感謝の気持ちを胸にこれからも頑張っていこうと思えます。

さて、これから各地各寺院で日蓮大聖人のお会式法要をお迎え致します。私たち法華宗僧侶・檀信徒にとつての信心の根幹となる大変重要な法要です。どうか「有り難い」という感謝の気持ちをお持ちになつて、各寺院・各本山へお参り頂きたいと思えます。